

東広島市役所訪問記録（令和3年7月12日）

日名条自治会 山内 島本

1. 維持課（担当者）

イ) 中島-白市線の8班入口付近の通行速度注意喚起のためにカラー舗装したが、あまり効果が見られないため路面のハンプ（瘤）設置について相談した。

回答：自転車通行の安全と道路に面する住民への影響（騒音、振動）がある。設置については、持ち帰って検討してくださいとのこと。（過去に設置したが元に戻して欲しいなどの事例がある）また、事前にテストすることはできるが、国にテスト機材の申請と設置工事があるので時間はかかる。

2. 危機管理課（渡辺氏）

ロ) 正原川の周辺（10班）では前回のハザードマップでは浸水区域になっているが、今回新たに配布されたハザードマップでは浸水区域になっていないので、その理由を尋ねた。

回答：ハザードマップは県の指示に従って作成しているので、その理由についてはこちらではわからない。

参考情報

- 浸水区域の想定は主要5河川（入野川、黒瀬川等）について100年に一度位の大雨が降ったと想定して作成している。正原川のような小河川については調査されていないのではないか、避難場所については各住民自治協議会の要望によって決定されている。

その他

- 9月の道作り後に防災訓練として、正原川の土手に土嚢を積むためブルーシート3枚を持ち帰り（5.4m×7.2m=2枚、10m×10m=1枚）真砂土2t車2杯分（8月末頃現地に配達）を手配した。（7月8日の大雨で氾濫寸前だった箇所の土嚢積み増し）

3. 西部建設事務所維持課（福吉氏・新木氏）

ハ) 危機管理課でわからないと言われた浸水区域が今回のハザードマップで外された理由について尋ねた。

回答：特別な改善理由がないと外されることはないのとおかしいですね。理由についてはわからないので後日調べて解答する。（3年前に浸水したことや今回の大雨でも浸水しそうだった事を伝えると、前回の浸水については認識しているとのことだった）

4. 電話にて調査状況の問い合わせ（7/15）

回答：正式にはもう少し時間が必要とのこと。10班地区は田んぼから宅地になって、地面が嵩上げされていることや、入野川の河川改修などから外れたのではないかと推測される。

二) 3年前の正原川の氾濫は、高美が丘の胡麻谷調整池からの水量が大いに関係していると思うので、この池の水面を監視するための監視カメラの設置を検討してもらえないか

回答：簡易カメラ設置については検討中、検討結果ができれば置設も可能になるかもしれない

以上